

ホストはアドリブで答えるはめに。その中から、終盤の名場面と思われるところを、お届けします。（内容をわかりやすくするため一部文言を変えています）

「犯行場所を別なところにして、例えばホテルで会うようにして、犯行に及ぶと危険は少なかったのではないですか」

「それをする、自分がカーク氏になりすましたときに、X氏（被害者）に疑われるのではないかと。それを最小限にするためには、カーク氏の事務所を利用した方が良いのではないかと考えました」

「でも、相手は初対面ですよ」

「カーク氏は社交界にも出ていたので、写真で知られているかもしれないと思い、事務所を利用することに決めました」

「ともあれ、ああいう形でX氏に会って、殺して切手を奪ったわけですよ。そのとき、はじめて、相手が神父でカラーが後ろ前なのに気付いたと。そこで、後ろ前のカラーとネクタイがないことを隠すために部屋の中のすべてのモノを逆向きにした。ふつうの人ならこういう発想は浮かばないと思うんですが、あなたは探偵小説マニアなんですか」

「はい」

「それで、密室のトリックも考えていたわけですね」

「そうです」

「ただ、服をすべて逆向きにしてもネクタイがなかったことは隠しようがないのではないですか」

「……そのとおりです」

「そうすると、カラーの後ろ前を隠すためだけに、あれだけの偽装をしたということになりますね」

「はい。本当であればネクタイを取りに行きたかったのですが、取りに行けなくて。あと、伝道師が神父とは知らなかったの、知っていたらネクタイを持ってきていたかもしれません」

「あの部屋の中のすべてを逆向きにする。しかも着衣からは、ラベルを切り取る。そういう作業をすべてするのは、なかなか大変だと思いますけども、例えば本がいっぱい詰まったままで本棚を動かせましたか」

「一度、本を出してから動かしました」

「そうすると、すべての作業をするのに、どれくらいの時間がかかったのですか」

「20分でした」

「……なるほど。よほど素早く立ち回ったわけですね。作業中、誰か来ませんでしたか」

「来ませんでした」

「もし、誰か来たらどうするつもりでしたか」

「今、でれないと答えます」

「そうではなく、ドアを開けて入ってきたらです」

「両方の扉を門で閉めていました」

「普通の客だったら、それで済んだかもしれませんが、カーク氏が来たら、どうするつもりでしたか」

「……………カーク氏は戻らないと思っていました」

「そういう、あやふやな推測をもとに、そんなリスクのある行動を犯すものでしょうか」

「犯さないですね」

「そもそも、後ろ前のカラーを隠すだけなら、衣類を全部脱がせて、持ち去った方が手っ取り早かったのではないですか」

「それが、したかったのですが、クイーンの別の作品でするので、できませんでした」

「わかりました。やっぱり、この犯行には無理がありますね」

（Tさんからの、突然の申し出、本当に楽しませていただきました。幸甚の至りです）

裁判劇後に、ふと「そもそも、後ろ前のカラーを隠すだけなら、衣類を全部脱がせて、持ち去った方が手っ取り早かったのではないですか」の回答が、楽屋落ちみたいなもの以外も、あったことに気がきました。それは、犯人は犯行後、密室に閉じこもるわけですから、衣類を隠す場所に悩んだのではないか。密室もしくは待合室で隠された衣類が見つかると、すぐに自分が疑われてしまうのでは、と考えた末の行動だったのかもしれませんが。